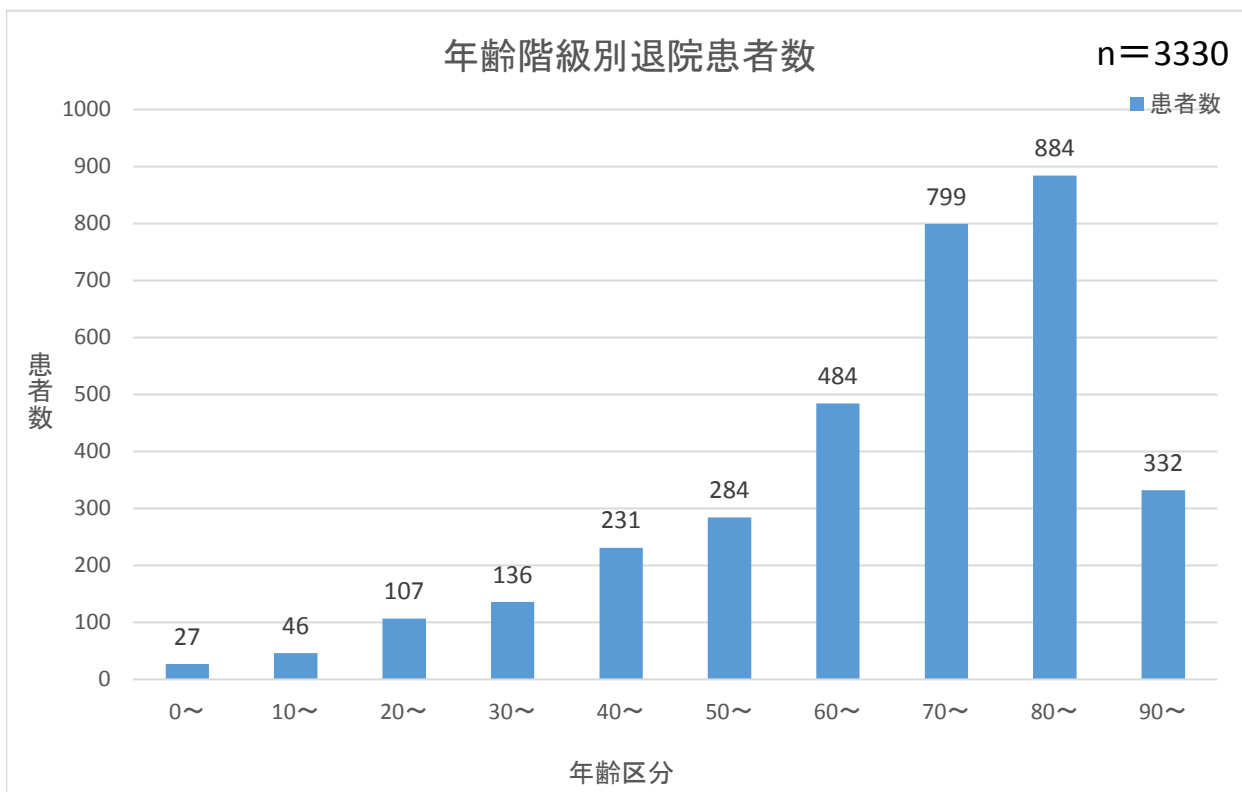


1) 年齢階級別退院患者数 【2016年度】

2016年度<2016年4月1日～2017年3月31日退院患者>



年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	27	46	107	136	231	284	484	799	884	332

<集計方法と定義>

- ◆対象患者は一般病棟に1回以上入院した、医科レセプトのみの患者です。
- ◆入院後24時間以内に死亡した患者さんは対象外です。
- ◆年齢は、集計対象となった日時点とします。
- ◆一般病棟の年齢階級別(10歳刻み)の患者数です。
- ◆年齢階級は90歳以上を1つの階級として設定しています。

<解説>

2016年度の全退院患者数は3330件、平均年齢は69.26歳で、高齢の患者さんが多いことがわかります。また、60歳以上の退院患者数は、2499件と全体の75%を占めています。

2015年度の年齢階級と比較すると、患者数のピークが70歳代より80歳代へ変化したことや、80歳代以上の患者数が110件増加していることから、当院においても超高齢化が進んでいることがわかります。

年齢階級別の主な疾患は、40歳代以下が鼠径ヘルニア、虫垂炎、腸炎、睡眠時無呼吸症候群、50歳-60歳代では、大腸の悪性腫瘍、小腸大腸の良性疾患(ポリープ、憩室炎など)、鼠径ヘルニア、睡眠時無呼吸症候群、70歳以上が、肺炎(誤嚥性含む)、心不全、胸腰椎骨折、股関節大腿近位部骨折、白内障、胃の悪性腫瘍などです。